

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 岡本小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 45人

② 算数 45人

5 留意事項

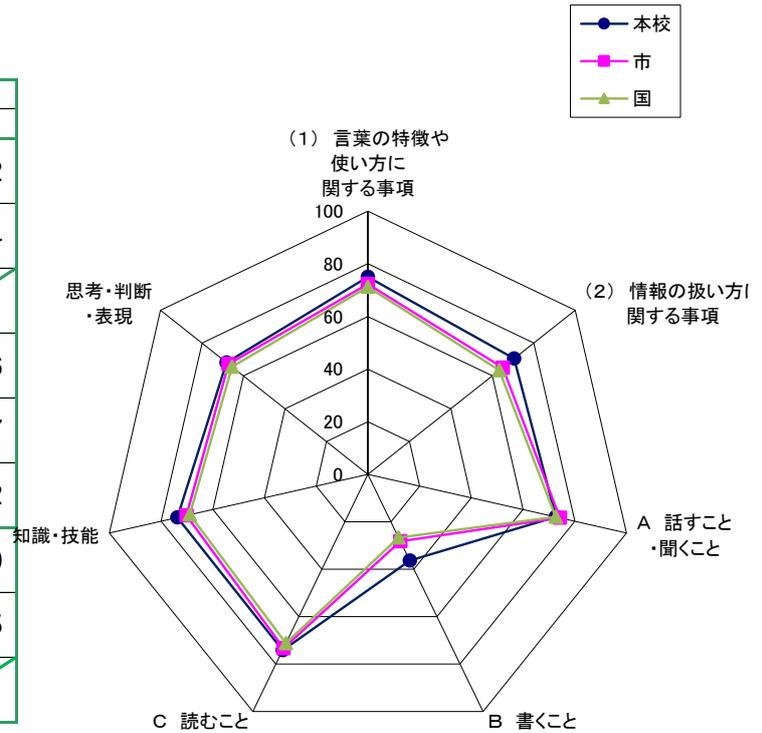
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立岡本小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	75.0	72.3	71.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	70.5	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	72.7	74.2	72.6
	B 書くこと	36.4	28.2	26.7
	C 読むこと	74.2	73.3	71.2
観点	知識・技能	73.7	70.2	68.9
	思考・判断・表現	68.2	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

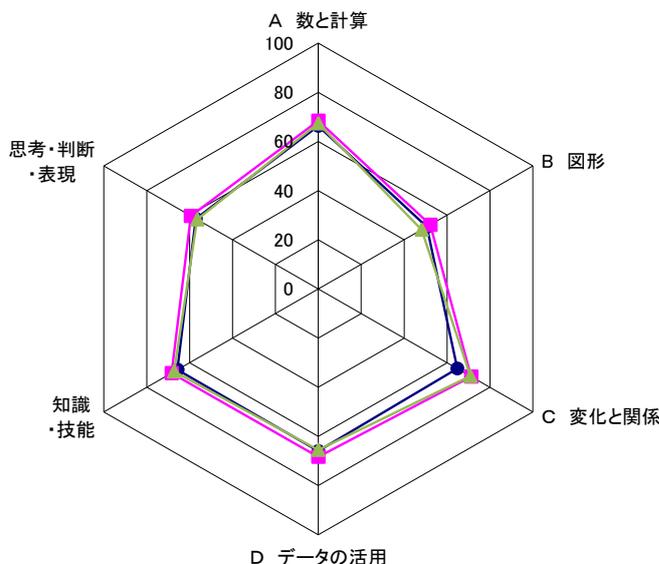
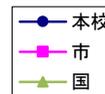
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、全国平均よりも3.8ポイント高い。 ○正しい送り仮名を選択する問題では、無解答がない上、95.5%の児童が正答している。また、文章の特徴を捉える問題では、84.1%の児童が正答しており、文章を丁寧に読み、どのような手順で作成された文章かなどをしっかりと確認して考えることができていると考えられる。	・漢字を読んだり、書いたりする際には、身近に漢字事典を置いて調べたり、1人1台端末を活用したりして進めていく。今後も多様な使い方や、意味と結び付けて捉えることの大切さに触れる機会を増やし、言葉の使い方を身に付けられるようにしていく。
(2) 情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、全国平均よりも7.1ポイント高い。 ○記録に書かれた内容同士の間関係を選択する問題では、正答率が全国平均よりも10.3ポイント高くなっており、情報と情報との関係について意識して情報を集めたり、まとめたりすることができている児童が多いと思われる。	・1人1台端末をさらに活用して、様々な文章の集め方・まとめ方で考える機会を取り入れ、情報と情報との関係付けや語句と語句との関係の表し方に意識を向けていくことができるようにする。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国平均と同程度である。 ○目的や意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる問題では、72.7%の児童が複数の条件をもらさず確認しながら解答することができている。 ●22.7%の児童が無解答であり、自分の意見をまとめることに抵抗感のある児童が多いことが伺える。	・全体指導のみではなく、ペア活動やグループ活動を多く取り入れ、相手の話を聞く際は、相手の話の目的や意図を捉えながら内容を注意深く聞き取ることができるようにしていく。また国語だけでなく他教科の学習においても話し合い活動を取り入れ、意見をまとめることに対する抵抗感を減らしていく。
B 書くこと	平均正答率は、全国平均よりも9.7ポイント高い。 ○複数の条件を取り入れたり、文章全体の構成や書き表し方に着目したりして書くことの大切さを理解し、考えたり表現したりしていることが伺える。 ●全国平均よりも正答率は高くなってはいるが、正答率自体は高くなく、無解答が9.1%と全国平均より2ポイント高くなっている。	・意図的に条件を付けて書く機会を増やし、その目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことを継続して行っていく。 ・様々な観点で互いの書いた文章を読み合い、感想や意見を伝え合うことによって、自分や友達の文章のよいところを見つけ、推敲できるようにする。
C 読むこと	平均正答率は、全国平均よりも3ポイント高い。 ○文章と図表を結び付けて必要な情報を読み取る問題では、正答率が全国平均より7.6ポイント高くなっており、文章を読んで理解したことをもとに自分の考えをまとめる問題も正答率は5.2ポイント高くなっている。 ●無解答率が11.4%と高く、取り組む姿勢の二極化が見られる。	・本文や問題文で内容の要点を押さえ、本文の中から問われている事柄を見つけ出して整理していくことができるよう、キーワードに印をつけるなどの指導を行うことにより、読み取る力の更なる向上を図るとともに、自分の考えをまとめる活動を多く取り入れていく。

宇都宮市立岡本小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	66.3	68.4	67.3
	B 図形	50.6	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	64.8	71.2	70.9
	D データの活用	65.9	68.3	65.5
観点	知識・技能	65.7	68.4	67.2
	思考・判断・表現	57.1	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は、全国平均よりも1.0ポイント低かった。 ○分配法則を用いて答えを求める計算問題の正答率は、全国よりも4.9ポイント高かった。このことは、計算については分配や交換・結合などの法則を活用し、早く、間違いの少ない計算方法を繰り返し演習してきたことの結果であると考えられる。 ●2種類の辞典を全部並べた時の長さを求める二つの式について、それがどのようなことを表しているのかを選ぶ問題の正答率は、全国よりも4.4ポイント低かった。このことから、立てた式が何を表しているかを捉える力が不十分であることが伺える。</p>	<p>・問題で示された式から、活用できる計算のきまり(交換・結合・分配法則)を見つけ、工夫して計算できる児童が多い。今後も繰り返し問題の演習に取り組みせるとともに、授業での学習課題において、より効率的に計算できる方法を学級で共有し合い、活用を広げていく。 ・式の表す意味について考えることが不十分であったことから、今後は授業の中で、友達や教師の表した式が何を表しているのか、ペアやグループで説明し合うなどの活動を多く取り入れ、算数活動での式の表し方や、なぜそのように表すことができるのか、その理由について理解できるように指導していきたい。</p>
B 図形	<p>平均正答率は、全国平均よりも2.4ポイント高かった。 ●テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く問題の正答率は、全国よりも8.7ポイント高かったものの、29.5%と低い値であった。このことから、底辺と高さが等しい三角形は面積が等しいことの理解が十分でなかったと考えられる。 ●テープを2本の直線で切ってきた四角形の名前と、その四角形の特徴を選ぶ問題の正答率は、全国より3.0ポイント低く、台形の意味や性質についての理解が不十分であったと考えられる。</p>	<p>・求積する中で面積の大きさが等しい図形どうしを見つけたり、底辺や高さをもとに、等しい面積の図形を作図したりするなどの活動を行い、図形への理解を定着させていきたい。 ・形を見てそれがどのような図形かを判断することはおおむねできるが、その図形の性質を説明することは十分にできていない。今後は、図形の持つ性質について重点をおいて復習させ、それを活用して、複雑な図形の角の大きさや辺の長さ、面積を求めたり、作図したりできるようにしたい。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は、全国平均よりも6.1ポイント低かった。 ●表から5脚の椅子を重ねた時の高さを求める問題の正答率は、全国よりも9.4ポイント低かった。 ●椅子の数が2倍になっても、高さは2倍になっていないことについて、表の数を使って書く問題の正答率は、全国よりも6.7ポイント低かった。 ●椅子4脚の重さが7kgであることをもとに、48脚の重さの求め方と答えを書く問題の正答率は、全国よりも5.5ポイント低かった。 これらのことから、二つの数量関係についてそれらが比例であるかどうかの理解及び、比例を用いて知りたい数量の大きさを求める方法の理解は不十分であったと考えられる。</p>	<p>・左記の課題から、二つの数量関係を表に表すことについて、二つの数量を表に整理した時に、一方の数量が2倍、3倍・・・になった時に、それに伴って、もう一方の数量も2倍、3倍・・・になっているかどうかを確認することが大切なことを復習させ、習熟を図りたい。 ・数直線や口を使った式の表し方を確認させ、比例関係から、知りたい数量を求める手順について身に付けることができるように指導していきたい。また、伴って変わる二つの数量について見つけ、それらの関係が比例であるかどうかを、表にまとめたり、倍数関係があるかどうかを確認したりする学習を取り入れることにより、数量の変化と関係について一層理解できるようにしたい。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は、全国平均と同程度であった。 ○二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く問題の正答率は、全国よりも12.0ポイント高かったが、無解答率が15.9%であったために、複数のグラフを読み取りながら、数量の関係に気付くことは二極化していることが伺える。 ●運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める問題は、全国よりも9.8ポイント低く、十分に理解できていなかったことが伺える。</p>	<p>・棒グラフの読み取りについては、縦軸や横軸の表すものについて、確認しながらグラフの様子から分かることを話し合う活動を重ねたこと、また、教科横断的にグラフを読み取ったり、作成したりする活動を取り入れたことにより、一定数の児童はグラフから分かることを見つけ、説明することができてきたと考えられる。今後も引き続き取り組み、グラフを読み取る力を高められるようにしていきたい。 ・運動カード問題では、40分や45分などの時間のものを30分以上として捉えられない回答が多かった。今後は、数の大きさを表す範囲「以上」「以下」「未満」を復習させ、正しく表現できるように指導していく。</p>

宇都宮市立岡本小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○自己有用感に関するものとして、「先生は、あなたのおよところを認めてくれていると思いますか」に対する肯定的回答は100%で、全国平均より10.2ポイント高い。また、「自分にはよいところがあると思いますか」に対する肯定的回答は91.3%で、全国平均より7.8ポイント高く、「将来の夢や目標を持っていますか」に対する肯定的回答は89.1%で、全国平均より7.6ポイント高い。今後も学級活動や児童会活動などの特別活動を中心とした、自治的な集団活動を通して自己有用感の涵養に努める。

○生活に関するものとして、「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対する肯定的回答は100%で、全国平均より14.7ポイント高い。また、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」に対する肯定的回答は86.9%で、全国平均より18.4ポイント高い。今後も学校が児童にとって安心安全な場所であるよう、教職員間の連携、家庭との連携を重視した教育活動を行うように努める。

○授業に関するものとして、「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」に対する肯定的回答は80.5%で、全国平均より16.8ポイント高い。また、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」に対する肯定的回答は91.3%で、全国平均より16.5ポイント高く、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」に対する肯定的回答は91.3%で、全国平均より14.8ポイント高い。さらに、「5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」に対する肯定的回答は93.4%で、全国平均より10.5ポイント高い。今後も児童の興味関心を引き出す探究課題を設定し、個々が自身の考えを自信をもって伝えることができるよう、話型等の支援を取り入れた授業展開を図る。

●読書に関するものとして、「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)に対し、30分以上と回答した児童は26.1%で、全国平均より11.2ポイント低い。今後は自発的に読書活動に取り組む児童が増えるよう、国語の教科書で取り上げられてい

宇都宮市立岡本小学校 (第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童が言葉の力を伸ばす工夫	各教科で宇都宮モデルである「はっきり」「じっくり」「すっきり」を意識した授業展開を行い、課題は何か、何をどのように学んだのかを気付けるようにする。 自分の考えを適切に言語化できるよう、学習形態を工夫したり、ICT機器を効果的に活用したりし、学習に取り組むことができるようにする。	「5年生までに受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」との質問に対する肯定的回答の割合は84.8%で、全国平均より6ポイント高い。 「国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめていますか」との質問に対する肯定的回答の割合は89.2%で、全国の平均より12.4ポイント高い。
児童が自信をもって伝え合うための工夫	授業で各教科における重要語句を繰り返し意識させ、活用できるようにするとともに、本時の授業におけるまとめや振り返りをしっかりと行い定着を図る。 また、話し合いの話し型・書き方の型を提示し、それをもとに友達と論理的に話し合いを進め、課題解決に見通しをもって取り組めるようにする。	「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」との質問に対する肯定的回答の割合は82.7%で、全国平均より、8.3ポイント高い。 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」との質問に対する肯定的回答の割合は82.6%で、全国平均とほぼ同じである。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から、「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること」「複数の資料を読んで理解したことを関連付けながら、自分の考えをまとめること」「伴って変わる2つの数量の関係が比例の関係を使って説明すること」等の正答率が全国平均より低い傾向にある。各教科において、文章を適切に捉え、必要な情報を活用し、具体例などを挙げて説明することが課題である。	各学年で、文章や資料を読む力を育てることに重点を置いた指導を行うと同時に、既習の語句を繰り返し取り上げ、自分の考えを書いたり、説明したりするなどの言語活動を、教科横断的に取り入れる。	どの教科においても、言葉を意識したやり取りを積極的に取り入れ語彙を増やすとともに、複数の資料から必要な情報を比較したり、検討したり、関連付けて考えたりする活動の充実を図ることで、読解力の伸長を図る。また、教師がモデルとなる文章を提示するなど、型を示し、それを参考に、自分の考えや学習で分かったことを論理的に書く活動の充実を図ることで、表現力の伸長を図る。 授業内容に関連する「復習教材」や「過去問題」等を適宜取り入れ、既習事項を活用して様々な問題に取り組む機会を意識して設ける。